



街どろぼう

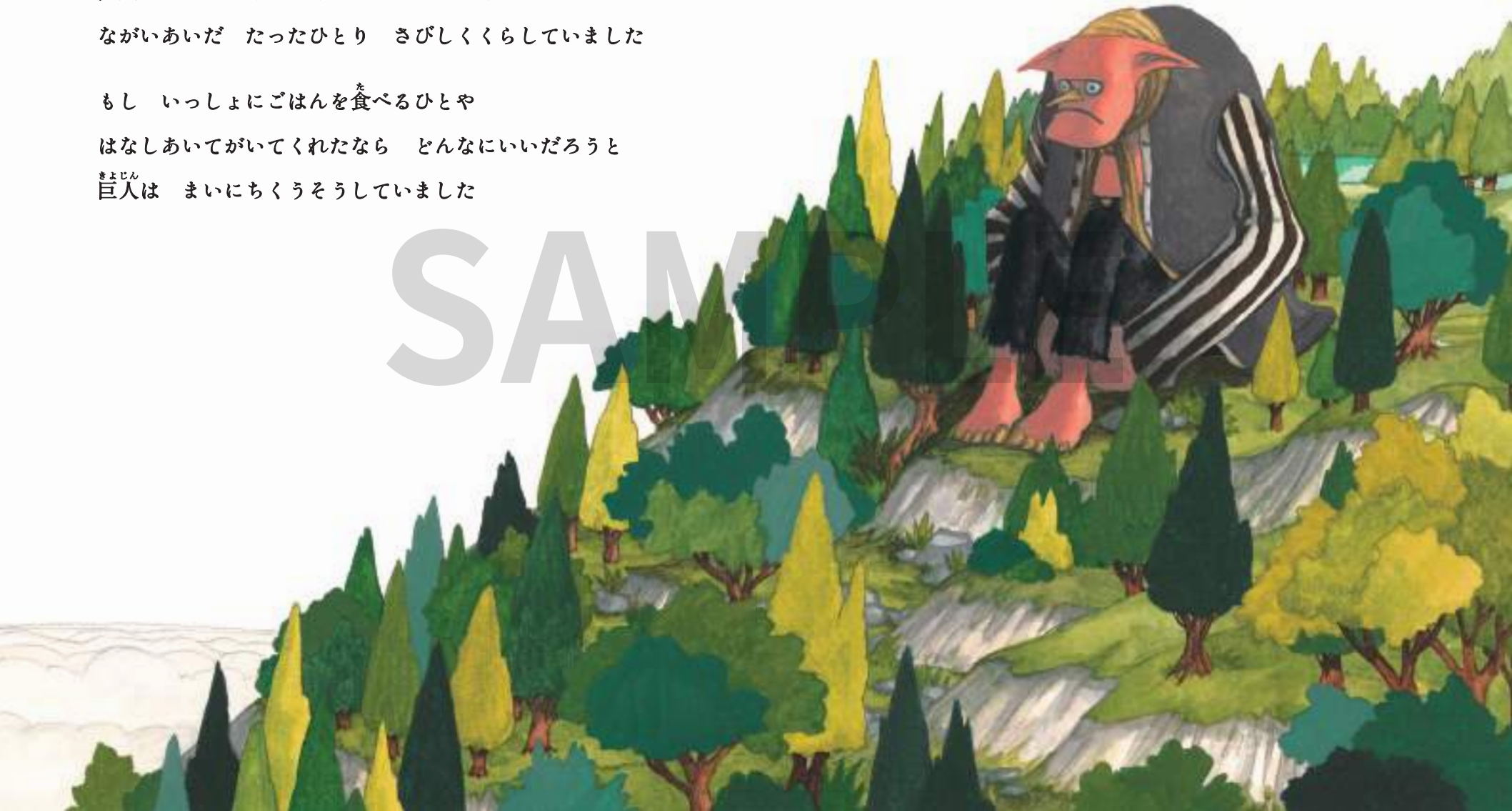
junaída



とおいとおい^く国の ^お大きな^{やま}山のとてっぺんに
ひとりの^{きよじん}巨人がくらしていました

^{きよじん}巨人には かぞくもなく ともだちもなく
ながいあいだ たったひとり さびしくくらしていました

もし いっしょにごはんを^た食べるひとや
はなしあいてがいてくれたなら どんなにいいだろうと
^{きよじん}巨人は まいにちくうそうしていました



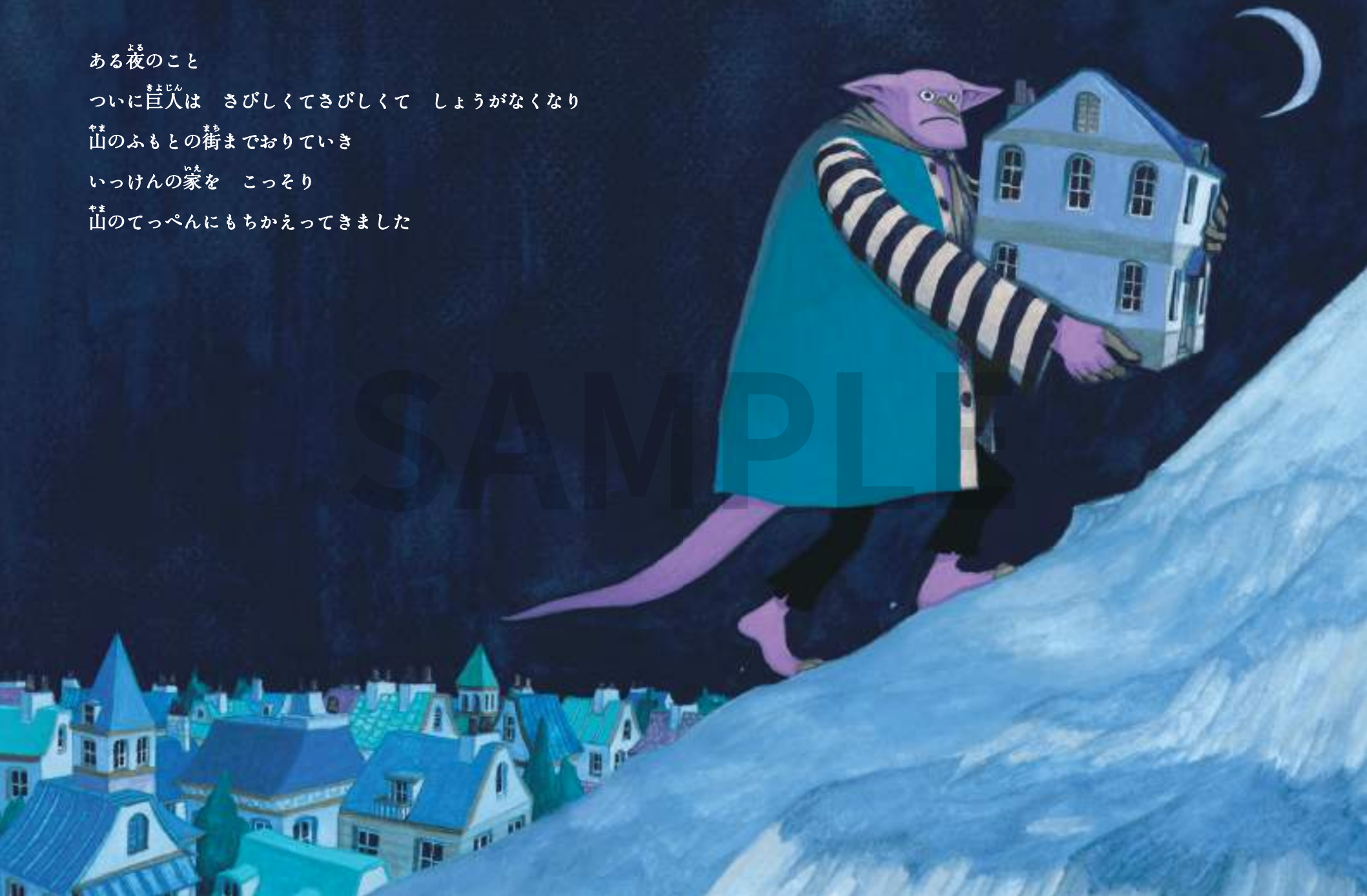
ある夜のこ

ついに巨人は さびしくてさびしくて しょうがなくなり

山のふもと^{やま}の街^{まち}までおりていき

いっけんの家^{いえ}を こっそり

山^{やま}のてっぺんにもちかえってきました





朝あさになって

その家いえのかぞくに 巨人きょじんはいました

「これから はじめにここでいっしょに暮らしましょう

ほしいものがあつたら なんでもあげますから」

すると その家いえのお父とうさんがいました

「わたしたちだけではさびしいので

しんせきの家いえも ここへもってきてくれませんか」



巨人はその夜 街へおりていき
かぞくのしんせきの住む家を
こっそり もちかえってきました

